



C O N T E N T S

特集 相模原「やまゆり園」事件 …2 頁

概要 (F・H) / UFO / P. 6000 / 山海珍味 /

孫悟麺 / 平田康郎 / 勉強会から池田小事件 (リネカー) /

勉強会からライシャワー事件 (菊池春海)

ポリショイサーカスに行ってきました …13 頁

編集部 / 山口咲子 / キャロル / リネカー

日々雑感 …14 頁

UFO / 堀正明

HOT NEWS INTERNATIONAL

(抄訳つき) …16 頁

Christine / Vivian

映画評 (日本鬼子) …18 頁

安兵衛

次号予告 …20 頁

編集後記 …20 頁

SSKS



ほ
っ
と

「ほっとスペース八王子」ニュース

2016年12月号

155号

定価100円

Facebook 発行 郵便 振替 所 集 人

〒192-0053 東京都八王子市八幡町一三二
ふくしまやビル二階「ほっとスペース八王子」(事務局:堀部 正)
042-6228-22319
042-6200-2786
http://homepage2.nifty.com/hotspace/
cxb01672@nifty.ne.jp
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷三ー一七
グエルドゥーラ祖師谷一〇二号室 障害者団体定期刊行物協会
https://www.facebook.com/hachioji.hotspace

特集

「やまゆり園事件」

事件概要

F・H

2016年7月26日午前2時ごろ、神奈川県相模原市緑区千木良にある障害者介護施設「県立津久井やまゆり園」に男がハンマーで窓を壊し侵入、夜の巡回中だった職員を結束バンドで拘束しながら障害者が起居している部屋に次々侵入、持っていた刃物で手り次第に障害者を刺し、19人が死亡、27人が重軽傷（犯行を止めようとした職員2名を含む）という惨事になった。この間一連の犯行は、わずか30分前後で行われたという。

被害に遭わなかった職員が通報したが、男は午前3時過ぎに津久井署に出頭してきた。

男はS容疑者（犯行時26歳）。2012年12月から2016年の2月までこの「やまゆり園」に勤務していた。やまゆり園に勤務していたころ、同施設職員に、重度障害者について自分の考えを述べている。この時期、衆院議長公邸を訪ね、大島理森衆議院議長宛てに手紙を送った。この手紙を事実上の「犯行声明」とする意見が多い。手紙の内容によると、「障害者は死んだほうがよい。2つの施設で実行す

る。政府には容認してほしい」という旨が書かれていたという。衆議院事務局は警察に通報、S容疑者の緊急措置入院を決定した。

3月2日、入院先の病院によると「被害の虞がなくなったので」退院させる。退院後、ハンマーや包丁などの凶器を準備していたらしい。前述のとおり、犯行後午前3時すぎに出頭したS容疑者を神奈川県警津久井署は午前4時半前に緊急逮捕した。供述によると、被害者遺族への謝罪は口にしたものの、犯行そのものの反省や悔悟の弁は聞かれないという。翌27日に身柄を横浜地裁に送検。なお、9月21日付で、鑑定留置に入ったという。

事件感想

私（F・H）なりに考えたことは、どうして17日くらいという短い日数で退院させてしまったのか、退院後、通院はきちんとしなかったのだろうか、いろんなことを思いましたが、あまりにもひどい事件だったので、この事件について考えることはあまりしたくはないのですが、少なくとも私は犯人のような人格とは別質のもので、他人と自分は別で、比べられるのもいやですね。

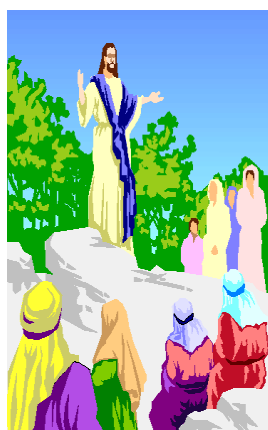
自分なりに考えたこと

UFO

私が最初にこの事件のことを知ったとき、近くでこんな恐ろしい事件が起きたことにびっくりしました。今までいろんなところに出かけたりしたことはあったけれど、私は、この八王子に生まれて、八王子ですずっと育って、今まで生きて来ましたが、でもそんな怖い事件が遠くはないところで起きていることは、とても不安になります。

犯人は、施設を辞めさせられていたことを恨んでいたと話していたそうですが、恨んでいたとしても、人を殺害することは罪になるし、よくないと思います。

あちこちで言われている、容疑者の優生思想とか、障害者への差別意識とかについては、私は、あれこれ推測できません。だから、断定的に言わない方がいいと思います。



やまゆり園事件について

P. 6000（トンチスト）

やまゆり園で起きたような殺傷事件から守るためには、防犯カメラに頼るだけではなく人による警備もしなくてはなりません。

それには、自衛団クラスの見守る地域の連携が必要だと思いました。例えば、新聞配達員や宅配便、郵便局員など常に人の目に映る環境下においては、殺傷事件防止に役立つはずです。

弱い立場の方々を殺傷させ、計画的な犯行を起こす人を知るには、薬も必要ですが、心のケアが必要です。なぜなら幻聴で自分から発する気持ちは自分で解消しますが、心のケアは相手の意思疎通です。



（右写真：7月26日惨劇の舞台となった県立津久井やまゆり園）



被害者の方々は精神的にも肉体的にも大きなダメージを負ったと思います。心のケアを優先的に行うのは言うまでもありません。ただ、徒に犯人を糾弾し、罰することだけでは簡単です。

問題なのは、如何に犯罪を防止（抑止）することです。それには、不断の努力が欠かせません。

明日を乗り切るためには、例えば食用植物を育てたり、物言わぬ友との相手を通して相手を思いやるとか、相手の立場になって考えてみるとかできると思います。患者自身がどのような人生を歩んできたかを問う時代なのではないでしょうか？

入院患者に日記など心境心理を理解して日記を短文でもよいですし、提出する必要があると考えます。

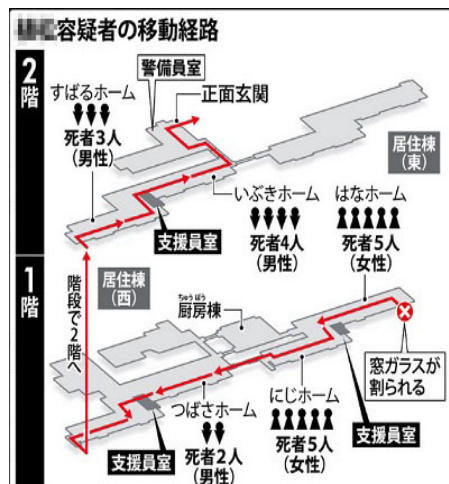
相模原事件に思うこと

山海 珍珠

相模原の障害者施設「やまゆり園」で、19名の障害者の方が虐殺された事件が報じられて、2か月が過ぎようとしている。もとよりこんな差別的・非人間的な事件を二度と起こしてはいけなしいし、また障害者への一方的かつ暴力的な攻撃が、この事件を一層悲惨なものとして、人を不快な気持ちに駆り立てていることは明らかだと思う。しかし、報道などを見て思うことは、なぜこんな事件が起きたのかについて十分に議論されているかという点必ずしもそうとは言えないと思うのが率直な感想だ。

いまや広く知られていることだが、報道によれば容疑者は、「障害者は社会的に不要な存在だから死ぬべきだ」と考えておりしばしば知人や周りの人に語っていたとのことだ。さらに「ヒトラーの思想が下りてきた」と発言しており、ナチス・ドイツの優性思想との関連が注目されている。

そのことで、思い出したことがあった。今年正月に、日本障害者協議会（J



D）代表の藤井克徳さんがドイツを訪問して、600万人（注1）ものユダヤ人を殺害したホロコーストに先立ち、20万人（注2）ものドイツ人の精神障害者や知的障害者、死に直面していた病人が、「生きるに値しない」として次々にガス室に送り込まれた場所を尋ねて、当時の関係者の話を聞いて歩くBS番組を見たことだった。この番組では、「戦争が始まる前には必ず社会的弱者である障害者や高齢者、病人や女性・子供が犠牲になる兆候がある」との藤井さんの意見を紹介して、ユダヤ人虐殺に先立ち、まず精神障害者が犠牲となった事実を、当時を知る関係者の証言を含め、ガス室の煙突から吹き出る煙の写真などを添えて検証していたと思う。その後ガス室に送られたのは病人や知的障害者にまで拡大して、1941年まで続いたという。



戦後70年を経たこの日本で、このナチスドイツが引き起こした悲惨な歴史が、80年の時空を超えてよみがえるかのような予感・錯覚（さくかく）すら起こさせるのが今回の相模原事件であるとも言えるのではないが、ネットで相模原事件を検索すると、必ずしも容疑者の優性思想が否定されていない言質（げんしつ）があると指摘（しきさ）する記事もある（<http://arcanaslayerland.com/2016/07/28/yamaguchi/>）。決して多数派ではないとは思いますが、悲しいことである。

さて、ではどうすればいいのか。こんな悲惨な事件を二度と起こさないために何が必要なのかと考えてしまいが、なかなか自分が納得する結論を出せないのが実情だ。

世界を見渡せば、地球規模で社会は揺れている。中東での戦争は長期化しており、テロでの犠牲者の報道が定期

的に二コースで流れる。日本でも、「日本を取り巻く安全保障環境は激変した」と、憲法を変えようという政治勢力（それぞれの主張の中身は違っても）が国会の2/3を超えた。

「差別禁止条約」が批准（ひんあ）され、「障害者差別解消法」が施行されたが、必要十分条件ではない...と思う。ひとたび国と国との間で「人殺し」が始まれば、まず社会的弱者である障害者が犠牲となる。そして高齢者・女性・子供と犠牲の輪はさざ波のように社会の隅々（すみずみ）まで広がってゆくだらう...

この事件で早くも、精神保健福祉法の措置入院制度の見直しが始まったと報道されている。精神障害者を取り巻く環境も激変するかもしれない。そうした動きに注目しつつ、そして相模原事件を2度と起こさないためにも、身の丈でできることをしながらこの事件をウォッチしつつ、考え続けていくことが必要なのだろうと思う次第だ。

注1...諸説あるが、ニューヨーク・ユダヤ人問題研究所によると、犠牲者数は約580万人。
注2...表面化した資料に基づけば、10〜12万人ほどだが、実数はその倍ともいわれている。

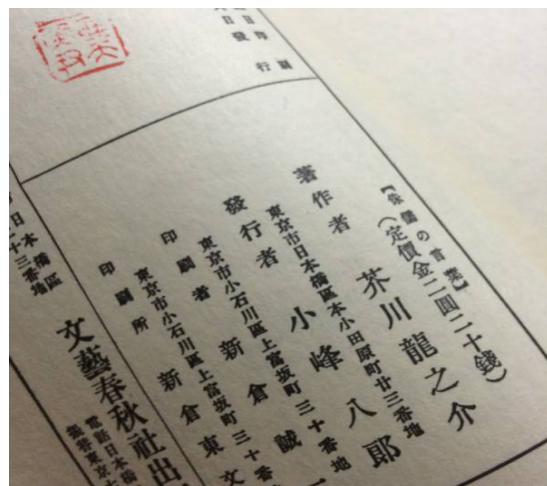
「県立津久井やまゆり園事件」 個人的見解

孫悟超

この事件の概要（がいよう）についてはさんざん書かれているので割愛（かつあい）します。

この事件に関して、個人的にはもっと鋭い見解を持っている人が多いと思うので、本質的な意見については他に譲るとして、自由に意見を書いていきたいと思っています。事件に関する意見については、テレビニュース、インターネット（フェイスブック）を中心に見てきました。

散見されるのは、容疑者（以下容疑者で統一。別の事件関係者は固有名詞をつけます）が優生思想に基づく差別主義者と断定する意見です。中には、「安倍政権が潜在的優生思想を持っているからこのようなモンスターが生み出されたのだ」という意見も見られました。容疑者は、「ヒトラーの思想が降りて来た」という供述も報道で伝わったとあって、ハイトクライム説を補強する結果となっています。時の政権の思想的な部分が、一般市民というか大衆の行動に影響を与えることはあるのでしょうか。
「危険思想とは常識を実行に移そうと



する思想である。」とは芥川龍之介の言葉だと伊坂幸太郎（注1）が書いていましたが、その言葉通りなら、まさに今回の事件がそうです。「ほっとスペースハ王子」では、過去に発生した事件に於いて、今回の事件との関連を学習しました。おもに次の4つです。
・神戸連続児童殺傷事件（通称酒鬼薔薇事件）
・ライシャワー大使刺傷事件
・大教大附属池田小児童殺傷事件（通称宅間守（注2）事件）
・秋葉原無差別通り魔事件
いずれの事件も、「優生思想に基づいたハイトクライム」ではないのですが、社会的背景、事件が引き起こした影響は大きいものがありました。酒鬼薔薇事件では（この事件が直接のきっ



かけではないのですが）少年法が改正され、ライシャワー大使刺傷事件では、精神衛生法（のちの精神保健福祉法）が見直され、宅間守事件では医療観察法の議論が加速され、秋葉原無差別通り魔事件では、加藤智大死刑囚の個人的動機だったにせよ、派遣労働環境の問題が浮き彫りになりました。

この中で自分なりに今回の事件の結論を言ってしまうと、容疑者の「死刑を代替手段とする自殺」になります。ちょうど池田小の宅間や、秋葉原の加藤とだいたい同じ動機と考えています。（注3）

容疑者は犯行時心神喪失あるいは耗弱状態にあったとは考えにくいと思われます。その裏付けとして「やまゆり園」の職員は結束バンドで拘束し、

入所している障害者だけを殺傷していく犯行手順、計画性がある様子からもうかがえます。

もちろん、一方でヘイトクライムをおこなっている部分もあります。「犯行声明」ともとれる大島理森衆院議長宛ての手紙には、障害者介護の現状、障害者は死なすべきという一方的な理論、供述でのヒトラー発言らしきこと（厳密には優生思想に基づく虐殺はヒトラーが言い出したことではないのです）など。ですが、それだけでは説明がつかない部分もあります。容疑者個人の犯行によって世論が障がい者排除の流れになるでもなく、大島議員に手紙を送ったところで免罪の密約がある訳でもないし、ましてや、19人も殺害すれば間違いなく死刑になるのがわ



からないとも思えないのです。押送される車内で容疑者は笑顔さえ浮かべていました。同様に「死刑を代替手段とした自殺」とされている姉妹強盗殺人事件の山地悠紀夫元死刑囚（注4）も、押送中薄笑いを浮かべていました。容疑者も似たようなものと思ってい

ます。

ただ、とても気になること、それは、マスコミが主体となって事件の風化を早めようとする傾向です。世論的にも「この事件はひどかったね」という過去形の思い出話になりそうです。

かくいう自分も、「どうしてこんな事件が起きたか」「こういう事件を起こさないためには」といった議論を尽くさずに次に進もうという考えがなくもありません。大体の人が持っているであろう「差別」という感情に向き合うことから逃げているということも否定しません。

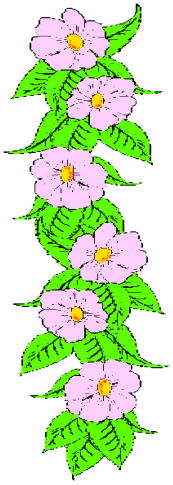
今回の事件の場合、重度の身体、知的障害者が標的となりましたが、寝たきりの高齢者、拡大すればジェンダー、人種、民族、宗教などの問題にもかかわってくるでしょう。

容疑者がどのような動機だったにせよ、今回の事件の異様性はどうしても浮いてしまいます。たとえば障害者介護の現状が動機の一つとすれば、と

きどき起こる介護殺人とどう違うのか、ということになります。介護殺人は、確かに加害者が、言葉通り被害者の介護に疲れ、あるいはストレスから殺害に至ることが多いです。しかし、一方被害者への差別心から殺害に至るのか、あるいは介護しているうちに差別心が芽生えて殺害への動機になるのか、それは事件の当事者にしかわからないことではあるのですが、それを考えるのはとても恐ろしいことであるような気がするのです。

最後にもう一つ。テロリストをはじめとして、犯罪組織などの反社会的集団などが銃撃戦の末射殺というような国際報道を耳にします。すでに欧米では法の裁きよりも排除といった考え方が台頭してきています。「どうせ凶悪





な人たちだから殺してもよい」といった考え方がいつか他人事にならない日
 が来るかもしれません。そうならない
 社会をつくる機会を考えさせるきつ
 けとして、この事件はヒントになるか
 もしれません。（この原稿をたたき台
 にして、推敲を重ね、別に書き下ろし
 た記事が「市民活動のひろば」誌《立
 川市を中心に発行されている「コミュニ
 ティ誌》に掲載されました。）

注1…伊坂幸太郎作「モダンタイム
 ス」の作中の登場人物が、芥川龍之介
 の「侏儒の言葉」から引用した。

注2…死刑確定後、支援者と獄中結婚
 し、姓が「吉岡」になった。

注3…他に、土浦連続通り魔事件の金
 川真大元死刑囚や自殺サイト連続殺人
 事件の前上博元死刑囚、山地悠紀夫元
 死刑囚などが死刑を自殺の手段にし
 とされる。

注4…山地悠紀夫元死刑囚は、16歳の
 とき母親を殺害、20歳まで少年院送致
 出所して2年後に大阪で飲食店勤務の
 姉妹を殺害して死刑判決、2009年
 に死刑が執行された。享年25歳。

相模原事件 措置入院「強化」の危うさ 及び 多数の重度障害者の殺人者の植松聖が 信ずる優生思想と現政権の政策思想

平田 康郎

相模原事件に関わって、当該の刑事
 被告人植松聖の犯行前の（精神病院へ
 の）措置入院時の対応の見直しの議論
 が出ている。安倍首相の「措置入院運
 用」への検討指示に伴って現地行政官
 （通常都道府県知事及びその代理人）
 の理解にも変化があったのではないかと
 懸念される。そのとんちんかんな議
 論が現実のものとならないようにとコ
 メントしたい。本日の東京新聞も「相
 模原事件 措置入院「強化」の危うさ」
 と言うタイトルで取り上げている。

相模原事件を引き起こした刑事被告
 人植松聖は、これまでの情報から見
 限り、「障害者は生きる価値がない。
 だから彼らを殺害することは社会全体
 にとって好ましいことである」と言う
 確信を持っているように見える。人権
 意識のかけらもないと見える考えでは
 あるが、このような思想を持っていた
 人間は決して百万人に1人いるかどう
 かと言えるような意味で特異な存在で
 はない。例えばナチス時代のドイツで



フランクフルト・アウシュヴィッツ裁判
 の被告人の一人、ヨーゼフ・クレール

は普通に存在していて、かつそうした
 思想から出てくる政策が政権そのもの
 の政策として実現されていた。そうし
 た方針や思想に基づいて当時生きてい
 たドイツ人は精神異常者ではなく、あ
 る意味、まったく普通の人間でもあっ
 た。だからこそドイツは戦後10年余り
 経ってフランクフルト裁判（別名アウ
 シュヴィッツ裁判 戦勝国による敗戦国
 裁判とも言われるニュルンベルグ裁判
 とは別に）を行った。そこで、戦時中
 に優生思想や人種政策に基づいて殺害
 行為を行ったドイツ人を刑法上の犯罪
 者として裁判にかけ刑罰を与えたので
 あり、現在もそうした優生意識に伴う
 殺害行為への処罰には時効は停止する
 と言う特別な法規定になっている。そ

の意味でも、今回の大量殺害事件は、
 精神病患者による事件とはまったく違
 うのだと理解すべきだと思う。

また「犯罪と精神医学」の著者で
 ある中島直氏も東京新聞の記事の中
 で「確信的な信念に基づく犯行だとす
 れば、精神医学とは全く関係がない。
 真相がまだ分からない段階で、性急な
 議論は避けるべきだ」（8月3日東京
 新聞朝刊）と述べており私の理解と
 まったく同じようだ。

同じコメントの繰り返しにもなるが
 まず更にドイツの事例を補足する。ド
 イツナチス時代に行われた優生政策の
 活動（ドイツ人であっても重度の知的
 障害者はドイツ民族の将来の優秀性を
 担保するため、また社会的価値がない



ドイツ、ハグマー精神病院の
 「ガス室」とされる部屋。
 「ガス室」にしては気密性が低く見えるのですが…

存在への費用削減のために、安楽死を施す）を實際に担った個人は戦後刑法犯罪人として処罰の対象になった。被害者・殺害協力者は精神疾患を持った人間と見なされてはいない。犯罪者たちを犯罪へと導いた思想は許さざるべきものだが、彼らはそれ以外では、まったく普通の人だったのだ。その意味で相模原事件の犯罪人の「措置入院」に絡んだ見直し検討を指示した安倍首相の理解はまったく的外れとは思えない。



目指せ!
「一億総活躍」社会。

50年後も人口一億人

×

家庭で 職場で 地域で

誰もがもっと活躍できる社会

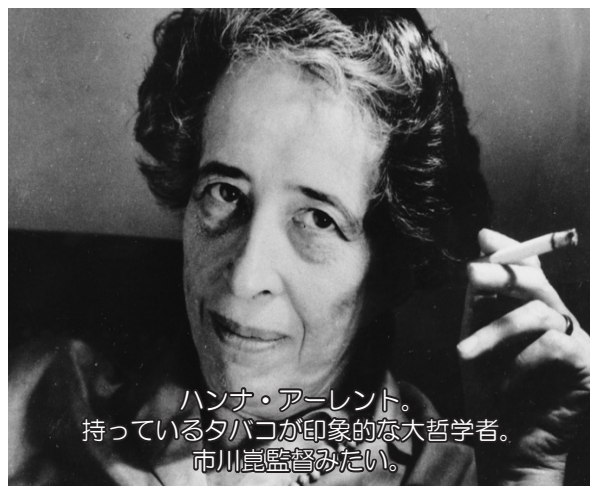
「一億総活躍社会」について、
安倍首相が掲示していたフリップ。
これ一つとっても、何かがおかしいことがわかる。

えるべきだろう。その一つはすでに植松自身が語っている「ナチスヒトラーの優生思想」であるし、さらに国内に目を向けて彼に影響を与えた可能性がある政策・思想を考える必要もある。その点から思い浮かべれば、彼自身が自分の犯罪に絡んだ「協力要請」や「同意」を求める政治勢力やその政治勢力を支えている思想の一部との関連を考えるのが当然と言える。

衆議院議長大島理森経由で安倍首相へ宛てた手紙の内容は殺害予告と言う以上に彼の犯罪への「協力要請」である点を考える必要がある。植松聖は現政権を支える思想の根底には彼と同じ優生思想があると理解していると読めるのだ。その意味で彼にとって安倍政

権は彼と同じ思想に支えられている。その政治勢力を支える思想との関連性は更に分析すべき対象と言える。対象の数は限りないとも思えるが、たとえば、「一億総活躍」政策はどうだろう。その活動を生み出した政治勢力は直接的に「障害者の抹殺」を主張しているわけではないが：一般理解者の中には「直接的な経済価値を生み出すわけではなく、周囲の人間の大きな労力に支えられてやっと生きている」と見なされている人間は、「活躍していない」人間であり、当該の政策自身がそのキャッチフレーズで国民に意識付けようとしている思索からは「重度障害者」は「一億総活躍」で期待できる存在ではないと言う理解をする人が生まれている。「一億総活躍」で活躍すべき人間には「日本人全体」「日本で生きるべき人間すべて」を含んでいるとするなら「障害者」はそうした「人間」ではないという事になる。優生思想との親和性を感じられるだろう。

更に補足すれば、ハンナアーレント（注1）は「イエエルサレムのアイヒマン」と言う書物を出している。ナチ将校として強制収容所で何百万人にもおよびユダヤ人殺害に係ったアイヒマン（注2）の裁判に関するものである。アイヒマンと言う人間がどこにでもいる普



ハンナ・アーレント。
持っているタバコが印象的な大哲学者。
市川崑監督みたい。

通の人間だと言う意味のことを「悪の平凡さ」と表現している。ハンナの語るところを我々が生きている場で要約すればこうなる。アイヒマンは東京都や新宿区役所、八王子市役所でも役人としてまじめに勤めることができるだろうし、出入国管理事務所の役人としても、あるいは小中学校高等学校の教員としても、施設の職員としても、ある意味りっぱに普通に仕事をこなせるだろうと想像できる。逆に言えば、現在日本の役所で普通にまじめに仕事をこなしている人間であっても、ナチ時代のアイヒマンの役職を与えられ働くなら、かなりの人間がアイヒマンと同じことをやりかねない、それが彼女が主張していることである。また彼女の



（左）スタンレー・ミルグラム
（右）アドルフ・アイヒマン
同列に語られるとは
ミルグラム氏も想定外だったでしょう。

主張はイエール大学のミルグラムが心理実験としてある意味、実証された（1963年・注3）とも言える。日常生活の場では倫理感もあり普通の人間と見なせる多くの人間が、権威者の勧めや同意があればやすやすと、日々の生活では当該の人間自身が許しがたいと考える虐待・殺害行為を行ってしまうものだと言つ心理実験である。別名「アイヒマン実験」と呼ばれるものである。

そして同じような役割を与えられてもアイヒマンのようにならないためには自分の行為の意味を常に問いかける思考の力だと言っているようだ。多分、自分の周辺で生きている人間とその状

況を理解する能力だろうと思う。また教育にはそのような能力の育成こそ求められると思う。20〜40人ぐらいの教室で一緒に学ぶ仲間と場を学校教育は提供している。ある意味、自分とも違う環境で必死で生きている友だちを理解できる機会でもある。その機会を逃さず教員関係者も生徒にその意味を理解させるように活動して欲しいと思う。

最後に先にあげた中島直氏が「措置入院」に絡んで短くまとめた記事を残しておこう。

「措置入院は年間七千件ほどあるが、実質的には精神科救急医療として機能している。肝心なのはどうすれば、患者さんが速やかに社会生活に戻れるかであって、政府が退院の制限や監視強化を念頭においているとすれば、本来目指すべき方向と逆行している」

注1…ハンナ・アーレントはユダヤ人の哲学者、思想家。第二次大戦中、ドイツからアメリカに亡命した。

注2…アドルフ・アイヒマンはドイツSS（親衛隊。NSDAPの私設軍）中佐。ゲシュタポ・ユダヤ人課課長。戦後逃亡するがアルゼンチンで逮捕、有罪になりイスラエルで絞首刑に。

注3…ミルグラム実験とは、2つの部

屋に分けられた被験者が「教師」と「生徒」役となり、「生徒」役が問題を間違えるたびに電気ショックを与えるのだが、だんだん電圧は上がっていく。実際は「生徒」役に実際の電気ショックが与えられることなく、電気ショックを受けた「演技をする」だけである。「教師」役は壁で見えない「生徒」役の反応を推測するしかないが、間違えるたびに電圧を上げるのをためらうと、実験者が用意した人物が実験を続行するように促す。それでもためらえば実験は中止になる。この結果、3人に2人は、最大電圧まで電気ショックのスイッチを「入れた」。この実験の要は、事件者が用意した人物が「権威あるいは権力者」として被験者にどのような影響を与えるかということにある。

ほっとスペース八王子では、今回の事件を受けて、過去に起きた事件と併せて勉強会を行いました。

- ・神戸連続児童殺傷事件
- ・大阪教育大附属池田小事件
- ・ライシャワー大使刺傷事件
- ・秋葉原無差別通り魔事件

この4つの事件と、今回の事件の関連性、あるいは相違性を考察しました。

大阪教育大附属池田小学校 児童殺傷事件

リネカー

事件の概略

2001年6月8日10時20分頃、大阪教育大学附属池田小学校に凶器（刃物）を持った宅間守が侵入し、次々と同校の児童を襲撃した。結果、児童8名（1年生1名、2年生7名）が殺害され、児童13名・教諭2名が重軽傷を負った。宅間は、校長や別の教諭にその場で取り押さえられ、現行犯逮捕された。宅間は最後の一人を刺し終えた瞬間、凶器である出刃包丁を自ら落として、「あーしんどー」と呟いた。その後、宅間は殺人罪などで起訴された。逮捕当初、宅間は精神障害者を装った言動を取っていた。しかし、被疑者に対して起訴前と公判中に2度行われた精神鑑定の結果で、2度とも「情性欠陥者で妄想性などのパーソナリティ障害は認められるが、統合失調症ではなく、責任能力を減免するような精神障害はない」とされ、責任能力を認める結果が出て、死刑を宣告された。その後宅間は控訴するがすぐに取り下げ、確定から1年弱の2004年9月14日に死刑は執行された。（注1）



大阪教育大附属池田小学校。
事件を伝える報道写真。

1900年 精神病患者監護法 自宅監置（座敷牢）と監護義務
1965年 精神衛生法（改正…注2）
通報制度→ライシャワー事件後
2005年 医療観察法（注3）
長期収容と再入院→池田小事件後

「精神病―歴史からの全般的捉え方―」
1. 近代になり、農村から都市に大勢同じような人が流入したところで、規定に従って働けない人として、雑多に管理され収容されるようになった。
2. 科学や医療が進む中で、次第に精神科の病気が分けられるようになった
3. 医学モデルが進み、病気として確立し、細かい分類が進んできた。



事件後、池田小学校には
8つの鐘がついた碑が建てられた。

医療観察法の成立
強制的な入院治療については、すでに精神保健福祉法に定められた措置入院や、医療保護入院などの仕組みがある。これに加えて触法精神障害者に対するこの特別の法律が制定されるきっかけになったのは、大阪府池田市で発生した上記の池田小事件である。犯人に精神科治療歴があることがわかると、一部の週刊誌をはじめメディアは一斉に「危険な」精神障害者に対して医療が治療責任を果たしていないと批判し、精神障害者を野放しにしていることが問題であるといい、触法精神障害者に対しては特別の治療施設が必要であると主張し、医療観察法が制定された。



社会病理という観点から
宅間は、「社会が自分を生み出した、社会に復讐したただけだ」という言葉を残している。
自身の成育歴や、環境により特殊な人格形成がなされたが、宅間は精神病ではなかった。しかし、とてつもない生きづらさを抱えていたのである。宅間の鑑定結果は「情性欠如者」である。では何故彼は他人の側に立った物の考え方が壊滅的にできなかったのか。宅間守についてこのようなことを言う人もいる「やはり一刻も早く社会から排除せざるを得ない人間は存在する」。

（監修：職員T）



注1…死刑確定後、弁護士をとおして当時の法務大臣あてに6ヶ月以内での執行を求めている。そのため、1年弱での異例の早期執行となった。
注2…精神衛生法の制定は、精神病院法、精神病患者監護法を統合する形で1950年に制定された。
注3…医療観察法は、日本精神科病院協会がかねてより触法精神疾患患者への法的不備を訴えてきたことに基づくが、この事件を受けて内閣によるプロジェクトチームが編成され、2002年に閣議決定。2003年に公布、2005年に施行。当時の首相は小泉純一郎、法務大臣は野沢太三、厚生労働大臣は坂口力。

今回の事件を受けて、 自分の置かれた環境との 関連を考察して思う事

リネカー

自分の父親は経営コンサルタントで、しっかりとした社会観念を持っており、働かざる者食うべからず的な発言を私に対してしてくる事もあったし、私が障害者年金の受給に関しても、ズルだからな、そんなものに同意書なんか書かないからな、という発言をしていたが、私は当時、父親の社会観念にがんじがらめになっており、父親もまた、社会の概念みたいなモノに縛られていたのだと思う。



しかし、二年前、家族でフランスに旅行に行った時、観光地のモン・サン・ミッシェルと云う所で私が暴行未遂事件を起こした事をきっかけに、私の統合失調症という病気に一定の理解を示してくれるようになってくれ、フランスから帰国後は、私が普段、通院している精神科のクリニックに、精神についての、話を聞きに行ったり、実際に両親でほんとに来て、堀部所長と面会をしてくれるようになったのは、大きな変化である。

自分自身としては、まだ高校時代の古い価値観に縛られ続けているというか、良い大学に入り、商社か銀行といった花形職場に入社し、女性と結婚して、子供をもつて、社会的自立を完全に果たす、といった、いわば古い価値観に縛られている側面があり、精神障害者としての自分をいまだに、正視出来ないというか、受け入れられないといった価値観がある。

また中学時代のイジメ暴力・悪口等により、精神病を発症した事を認められない、弱い立場の自分を受け入れられない、という側面もあると思うが、それがなぜなのか？

家族も崩壊しているのではないかと？父親が社会観念にとらわれて、親であるのにも関わらず、息子の弱さ、社会



ライシャワー事件まとめ

きくちはるみ
菊池春海

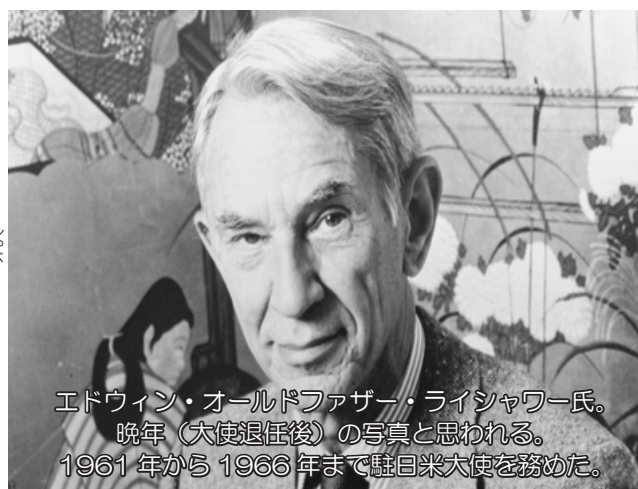
A. 《事件概要》S 39年3月24日、駐日大使（当時）エドウィン・オールドファザー・ライシャワー氏（以下ライシャワー大使）が19歳の少年（注1）に右大腿部を刺された。全治三週間のケガで生命に別条はなかったが、（注2）日米両国にシヨックが走った。

当時の日本は、高度経済成長期にあり、「もはや戦後ではない」と言われしめ、この年の10月には、東京オリンピックの開催を控えていた。

それを受けて精神病患者（＝危険人物という偏見）を野放しにしてはいけないという政府与党の議員の間から（精神病者を）収容すべきだという声が高まり、「異常者の犯罪」をどう防ぐかという議論になり一気に精神病患者は隔離収容という機運が高まった。また、少年法の年齢を下げるという声も上がった。（注3）

B. 当時の総理大臣であった池田勇人氏は、「こつという患者の野放しは文明国として恥ずかしい。急いで取り締まれるように対処せよ」と指示を出し、（注4）小林武治厚生大臣（当時）も





エドウィン・オールドファザー・ライシャワー氏。
晩年（大使退任後）の写真と思われる。
1961年から1966年まで駐日米大使を務めた。

それを新聞記者に喋ってしまった。

当時の若松栄一公衆衛生局長が、厚生大臣に呼ばれて「急いで法律改正作業を進めて野放しの患者が一人もいないようにしたまえ。金はいくらかかってもいいという内閣の厳命だ」と言われた。《大谷藤郎（注5）の回想による》

C. 《大谷藤郎の回想続き》「私は仰天しました。良い薬ができて世界的に精神病対策の大転換が行われているときにそんな事をしたら世界の笑われ者だ、事件だけで国辱的なのに、今度また精神障害者を閉じ込めたら更に国辱になると思った」

D. 《中山宏太郎（注6）による

（1980）》いわゆるライシャワー大使刺傷事件が起こり翌1965年の精神衛生法の改正（注7）は、精神衛生センター、精神衛生相談員制度、通院医療費公費負担制度が新設されたなどの進展はあったが、警察官等による通報・届出制度の強化、緊急措置入院制度が設けられる等の改正となり、精神衛生審議会による答申を十分に反映したものではなかった。

E. 《大谷藤郎による（2000年）》事件発生後のごく初期には、「精神障害者が野放しで危険だからすべて取り締まれ」的の議論が起こり、法改正内容に後ろ向き政策が執られたのではないかという憶測が広がった点はマイナスだった。

結果的には一応の審議を尽くし当時の精神医療の水準としてはまあまあの答申を得ることができ、それにより法律化をはかることになった。

ライシャワー事件 （個人的所感を含む）

1964年3月24日に起きました。犯人は19歳の少年。東京オリンピック開催7ヶ月前に起き、精神障害者への

対策が強化された。精神衛生法を改正し、緊急措置入院制度などを新設することになった。危険性があるとして精神病患者を治安対象にしたのだった。精神衛生法の改正は、世界の精神病治療の流れに逆行していた。世界的に精神医療は向精神薬の開発により精神病患者の社会復帰を促進し、入院治療から通院治療へと変換を目指していた。

しかしこの流れが事件によって変わり、患者の人權は軽視され、精神病患者を隔離する傾向が強まった。この流れを示すように1960年に8万床だった精神病院は1970年には25万床へと急増している。2014年でも33万8千床となっている。



事件後、入院中のライシャワー氏。
一緒に写っているのは、ハル夫人。

犯人は「自分の考えを多くの人に知ってもらうことが出来たので満足しています。自分の行為にも恥じることはありません。別に悪いと思っていません」と答えたという。（注8）

当時の新聞は、この事件を徹底的に取り上げました。翌3月25日の天声人語「春先になると、精神病患者や変質者の犯罪が急に増える。毎年このことだがこれが恐ろしい。危険人物を野放しにしておかぬように、国家もその周囲の人ももっと気を配らなければならない。犯人が精神病的だったからといって、外国大使を傷つけた日本の責任が軽くなるというものではない」

当時、この朝日新聞の論調は、新聞マスコミの代表的なものでした。また刑法学者や、厚生省もこれに同調した



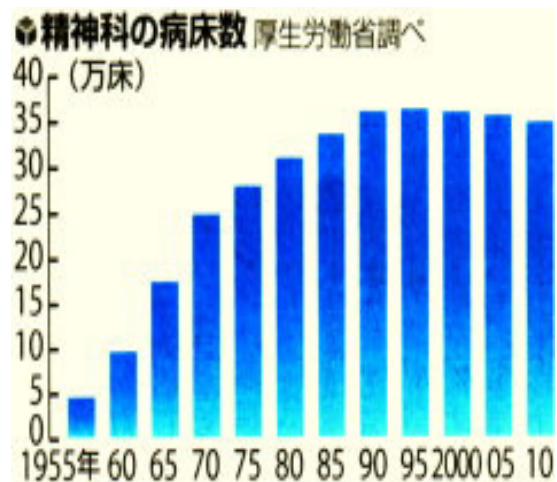
事件を伝える報道（毎日新聞）。
ほぼ一面を使って伝えている。



のです。マスコミの力というのはなかなか強く、朝日新聞がなにかという社会の多くの人はそれに同調しました。刑法学者や専門家は「精神病者の問題である精神病の人を、野放しにしていることが原因だ」と主張したのです。

3月26日の朝刊の社説は「精神障害者対策の前進を」と題して3つのことを提言している。

まず病気の「早期発見」とりわけ「両親が一番よくわかるのであるから隠さず医師なり精神問題相談所なりに行く事である」。次に治療の重要性だ。この社説は精神科のベッド数はわずかに8万床で日本の全病床中に占める比率は約11%、米の約50%、その他の国の約30%以上というのに比べてなんと



う貧弱であろうか」と嘆いている。翌年1965年に行われた精神衛生法改正の特徴は、次のように整理された。

1. 保健所に精神衛生相談員を配置し、訪問指導、相談事業を強化。
 2. 精神衛生センター（現：精神保健福祉センター）の設置。
 3. 通院医療の1/2の公費負担制度の新設（注9）。
 4. 警察官らによる通報、届け出制度の強化。
 5. 措置入院制度の強化、緊急措置入院制度の新設など。
- 4、5に象徴されるように治安重視に傾いたものとなった。慶応大の加藤久雄教授（当時）は、この改正を「同法の一部改正は専ら保安面の強化とし

ていわば実質保安処分的改正に終わり、病者の社会復帰などの治療の開放化など患者の人權の確立・確保などの重要な視点や提言はすべて退けられてしまった」と評している。（注10）

なお、この事件を起こした少年は、「世間を騒がせるために大使を襲ってやろうと思った」と供述、政治的、思想的な背景、正義感から来る動機だったのかどうかは不明。結局心神喪失とされ不起訴治療と決定された。

結局事件から7年後少年は自殺、真相は最後までわからずじまいだったが、「心神喪失ではなかった」説は強く残っている。

注1…統合失調症で精神科に通院歴があり、事件当時、工員風の格好で駐日米大使館の裏口に現れた。
注2…治療の際、輸血を受け、「私にはアメリカと日本の血をわけた兄弟になることができた」と発言。また、「この事件で日米関係悪化の原因にならないでほしい」と関係者に言っていたが、輸血が原因で、肝炎を発症。
注3…この事件の前に1958年に18歳の少年が小松川で2人の女性を殺害した事件（小松川事件）、この事件後に発生した同じく18歳の少年が警官などを殺傷した事件（少年ライフル魔事

件）などが発生し、議論に拍車をかけた。
注4…このころの池田首相は癌を発症していたといわれ、1964年9月に入院、同年10月25日に内閣総辞職、翌1965年8月13日死去。

注5…元厚生省（現厚生労働省）官僚。国際医療福祉大学初代学長。

注6…精神科医。元日本精神神経学会保安処分に反対する委員会・委員長。

注7…1965年6月30日公布、施行。

注8…この供述を根拠に、「少年は心神喪失ではなかった」とする異見も多い。

注9…後に制定された障害者自立支援法（現：障害者総合福祉法）では、患者の収入、経済状況などによる段階的な負担制度に変わった。

注10…精神衛生法は、1987年に精神保健法、1995年に精神保健福祉法（いずれも通称）に替えられた。





補遺

年を経て2015年3月5日、韓国ソウル市で朝食パーティー中の駐韓米大使マーク・リッパート氏に男がナイフで襲い掛かり、リッパート氏は頬と左腕を貫通する重傷を負った。襲撃犯G・Kは、2010年にも駐韓日本大使にもレンガを投げつける事件を起こし（同席した一等書記官が軽傷）、当時の韓国マスコミは（あくまで一部ですが）義拳と報じたところもあった。その事件では、懲役2年執行猶予3年の判決であった。リッパート氏刺傷事件当時は会場のセキュリティが甘く、襲撃犯G・Kによれば「独島（^{トクト}日本名竹島）を日本領と認めるのが許せない」「米軍の韓国内での訓練に反対」などの供述をしたという。

公判では責任能力があるとされ、ソウル地裁は傷害、外交使節暴行などの罪で懲役12年の判決を下した。

2016年10月現在で控訴中（検察控訴）。反米などの状況が似ていたため、参考までに取り上げた。（編集部）



ボリショイサーカス に行ってきた

今年も行ってきましたボリショイサーカス。正式名称はロシア連邦サーカス公団。「ボリショイ」にはロシア語で「大きな」という意味があり、直訳すれば「大サーカス」、日本でいえば「木下大サーカス」みたいな感じですが、「ボリショイサーカス」といえばロシア（旧ソ連時代も含めて）という印象ですね。

実はロシアには多数のサーカス団があって、それぞれが「ボリショイサーカス」を名乗っている場合もあるそうです。来日しているのは前述した「ロシア連邦サーカス公団」です。ソ連時代から変わらず国立です。「国立」で「ボリショイ」ときたら、バレエ団もありますね。いつか見に行きたいものです。善意銀行さんに期待。

さて、サーカス団にも時代の流れというものがあまして、派手な演出、マジック（イリュージョン）ショーなんかもあったり、猛獣の火の輪くぐり

はクライマックスでした。今ではマジックショーは独立したショーになり、猛獣のショーは、動物虐待にあたるからと火の輪くぐりなんてもつてのほか、縮小傾向にあります。

フランスの「シルク・ド・ソレイユ」のような人間だけによるショーというサーカス形態も珍しくなくなりました。そういった意味では、伝統的な旧来のサーカスを一応は保っている木下大サーカスの方が面白いといえば面白いのですが、どっこいボリショイサーカスも何のこれしきロシアから来た精鋭たちによる演技はすごいひのひとことです。来年の公演も楽しみにしています。（編集部）

この原稿を書いていたら 思い出しました

7月19日に千駄ヶ谷の東京体育館
山口咲子

でボリショイサーカスがあったので「ほっと」のみんなで観に行った。

「昨年も「ほっと」でボリショイサーカスを観に行ったが、私は体調が悪くて観に行けなかった。今回は体調も悪くなかったので観に行けた。

千駄ヶ谷は遠くて疲れた。代々木のクリニックへ通院するのも疲れるが、ちょっと感覚が違つ。

喫煙所があったので、3人で一服できてよかった。サーカスの内容はあまり覚えてなかったけど、原稿を書くときに一緒に行った人から説明されてけっこう思い出せた。思い出すまでは、何となく楽しかったという感覚しかなかったので、思い出せてよかった。



熊さんおつかれさま

でした

キャロル

7月19日(火)東京体育館へポリシヨイサーカスを観に行きました。

サーカスを観に行ったのは、2月に武蔵村山でやっていた木下大サーカス以来ですが、今から思い出すと、ずいぶん前だったような気がしました。

木下大サーカスはとても楽しかったので、今回のポリシヨイサーカスも楽しみにしていました。

実際に観て、人の演技が多かった印象です。でも、ひとつひとつの演技がこまやかでした。

2枚の布切れを使って、幻想的なダンスをしたり、男の人が、2階席からフライングディスクを投げお客さんがキャッチしたり、ストーリーのあるダンスがあったり、楽しかったです。空中ブランコは、もうちょっと見ていたかったです。

動物の演技もありましたが、熊が大変そうでした。



印象に残った

天井から垂れた布を使った

女性のダンス

リネカー

7月19日、「ほっと」のみんなで千駄ヶ谷の東京体育館へ、ポリシヨイサーカスを観に行きました。

京王八王子駅に集まった人と、新宿で待ち合わせして、昼食を摂って、14時からの公演を観ました。

特に印象に残ったのは、熊のショーでした。玉乗りをしたり、輪をくぐったり、熊は大変そうでした。

他には、2枚の布を使った、女性のダンスが印象に残りました。昇ったり、降りたり、身体に巻き付けたり、ほどいたり、幻想的な演技でした。あとは、サーカスでは定番の空中ブランコです。けっこうハラハラして観ていました。

今から思い出すと、「ほっと」に通信し始めたころと比べて、積極的に、行事に参加するようになりました。帰りは、千駄ヶ谷で、みんなとは別に帰りました。



市民の愉しみ 八王子まつり

UFO

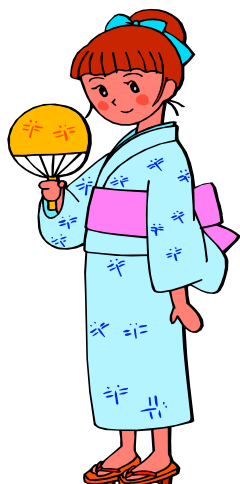
「ほっと」休日の過ごし方

UFO

私は、毎年(東日本大震災で中止になった2011年をのぞいて)八王子まつりに参加しています。今年は、8月の5日6日7日の三日間開催しました。

5日の夜は、町会2か所でお囃子(はやし)を観に行きました。6日は、午後山車(だし)を曳きました。夜も山車曳きをしました。昔は、八王子まつりの中日に花火大会だったのですが、今は別の日に花火大会をしています。7日も、午後山車を曳きました。夜も終わるまで山車を曳きました。

3日間楽しかったです。屋台を見て周ったり、誰かの家でお酒を飲んだりしている暇がなかったくらいです。まつりが終わって、町内会でお菓子を貰(もら)って八王子まつりは終わりです。また来年の八王子まつりが楽しみです。



私は、毎週土、日の午前中富士森体育館(旧・市民体育館。現在の市民体育館は狭間エスフォルタアリーナ)まで歩いて行きて、体育館の中のジムで2時間筋トレをしています。体育館にある器具を使ったマシントレーニングをしています。2時間も筋トレをするのはだれでもきついと思います。私もきついですが、だから、休憩しながら、あまり負担にならないようにやっています。これからも毎週土、日曜日にはジムに行きたいと思っています。

テレビは消えなす

堀正明

この前のXデー（天皇が死ぬこと）で「記者会見」が午前7時50分にあつたのに、当日午後3時過ぎまでニュースを知らなかった。

「そろそろかなあ」という事で、第一報をいち早くつかむため、家にいる時はテレビかラジオ・最近はネットを付けっぱなしである。

意見の分かれるところだが、わたしは明仁には戦争責任はないという立場である。ただ「自粛・弔意を強制するな」のデモ・集会に一刻も早く出かけた。ネット検索があるのだろうか？

よく見るのはニュース・ワイドショー・それからライオンズを中心としたプロ野球である。NHKは「政府広報チャンネル」なので基本的に見ない。尤も国会中継はこの限りではない。

自宅ではBS・CSは映らないが独立局（テレビ神奈川・チバテレビ・テレビ埼玉）は映る。現在チバテレビの社外モニターをしており、月1回レポートを書いている。6月にはモニター会に招待され主調整室など局の「秘部」を案内してくれた。

テレビを効率的に見るには新聞の番組欄が欠かせない。番組欄だけを考えれば朝日は使いにくい。11月から日経になるがどうなることやら。



ラジオは東京のAM・FMのほかRラジオ日本・Bay-FM・nacks・Fラジオ日本・Bay-FM・nacks・江東・江戸川・中央区のコミュニティFMが入る。スカイツリーの目前なのでFM（AM補完放送）は完璧である。

よく聞くのはラジオ日本（1422キヘル）、深夜枕もとでつける。他局と違って30分ごとにテンポよく番組が変わるので聞きやすいのである。

先日は悠歩舎（えどがわ悠人会）の旅行で伊東に行ったとき、客室に着いたとたん、国会中継をつけてしまい顰蹙を買ってしまった。

ま、そんなわけでテレビが大好きなのである。

やせ薬

堀正明

「トピナ」の噂を聞いたのはグループホームにいた3年前、Kさん（女性）からだつた。

私は最近食欲が異常で1日4食が5食になり、体重が116kgになっていた。食費だけで生活費を圧迫している事態になっていた。

ネットで調べたところ、もともとは「てんかん」の薬で「副作用として」食欲減退、体重減少があるとのこと。そのほか、だるさめまいなどもあり順調に体重が減らない場合があるらしい。

しかし、これ以上の体重と食費の増加に我慢できず、主治医と相談の上、服用を始めた。トピナの服用には「別の薬を飲んだが効果が芳しくなかったから」という理由が必要である。その薬はベンザリン（睡眠薬・5mg）になった。トピナを処方してもらったため、そ



して維持量まで増量してもらったため、最近の通院は毎週である。

食欲は…確かに落ちた。10月21日、江戸川区こころのスポーツ交流会の後、えどがわ悠人会で打上げに鍋を炊いたが、おかわりができなかった。そのときは本当に悔しかった。

口がさみしくて、何の気なくスーパーに向かう気がする。関東では激安で有名なOKマートが目の前にある。しかし、何も食べる気にもならず、買物かごを置いて帰る時もある。

まだまだ夜食をドカ食いする時もある。歩いて1分がセブンイレブンだ。地域的にもセブンイレブンがドミナント出店（一定の地域にまとめて出店して、配送を合理化し、地域でのブランド力を高めること）がされている。なんだかんだ言ってもセブンイレブンの弁当・おにぎりはつまい。昨夜は牛丼・肉じゃがをセットで買ってたいらげってしまった。

だるさの方は…むちゃくちゃしんどい。1日、昼動くと、2日寝てという生活を繰り返している。

トピナは今、導入量（50mg）。3日後の診察で維持量（100mg）に増量される予定である。

はかばかしい「効果」が現れるのを期待するものである。

Hot News International

What's Hotspace Hachioji

Written by Christine

Hotspace Hachioji is a haven and a second home for people who are less fortunate to have disabilities, mentally and physically and most of them live on their own or no longer have families.

This is a place where they can relax, enjoy and be treated like normal and important people.

A place where they can consult about their emotional, physical and mental well being.

And most of all, about how to live their lives the best possible ways they can.

Here, different programs, activities and events are provided which they can opt to join or participate such as helping in preparing for lunch, English class, kanji and musical

lessons, out of town gatherings and etc..

There are also tasks made for them to do individually like coffee packing and cleaning in a designated place assigned to them.

I must say that Hachioji Hotspace is doing so well in helping these people to live their lives like every normal happy people do without being discriminated.



ほっとスペース八王子で感じたこと

クリスティン

ほっとスペース八王子は、精神的、物理的に困難な状況にある人たちにとって避難場所であり、また、メンバーそれぞれは家族がいたり、一人暮らしだったり

さまざまですが、ここではみんなが家族のようであり、第二の故郷のような場所になっています。ここでは、みんながリラックスして楽しむ場所です。そして対等です。ここを利用する人は、精神面、生活面、経

済面などさまざまな相談をします。そしてできる限りの助言、支援を得て経済面などさまざまな相談をします。そしてできる限りの助言、支援を得ることが出来ます。ることが出来ます。

ここでは、屋食の提供(300円)、さまざまなプログラム(漢字、英語、音楽など...)を選ぶことが出来ます。また、店舗清掃やコーヒーの製品

私の拡大された「家族」が集う食堂

ヴィヴィアン

私は、「ほっとスペース八王子」で働き始めることになりました。

友人のひとりにここ、ほっとスペース八王子を紹介されたのが、私がここで働くことになったきっかけです。実際に働き始めた最初のころはすごく不安な気持ちがありました。

私に与えられた仕事の役割を考えると、自分の持ついろいろな能力で仕事がいかにやりこなせるかできるのか?その責任のことも考え合わせると大変だと思いました。特に皆さんへの「料理」を出すという事(皆さんに食べてもらうこと)への責任は、自分が持っている能力を考えると、心の港町とも言える幸せな思いから恐怖に近い感情までが自分の中で動くのを感じました。場合によっては自分の心の将来

パッケージなどの作業をすることで、地域貢献にも尽力しています。ほっとスペース八王子は、障害のある人がそうでない人と同じように生活していくための素晴らしい働きをしていると言えます。(この文章は、左上記の英文を大まかに訳したものです。微妙な誤訳など生じる場合がありますが、ご容赦くださいませ...編集部)

までが凍りつくような気持ちもありました。

でも、時間が過ぎ、私が作った料理への皆さんの声などが聞こえてきて・・・私は自分の料理が素晴らしいと思われていることを感じ始めました。そしてこのほっとスペース八王子の雰囲気、自分をも支えてくださる気持ちを感じられました。週一日3時間の短い時間の仕事で、私は料理や日々の活動を楽しみました。そしてほっとスペース八王子は今では私の家族のようなものになりました。また私の外での活動と今では、私はほっとスペース八王子の仲間と仕事でも社会生活でも強くつながっています。短い時間ですが、私は楽しく料理をすることが出来る、またほっとスペース八王子の仲

In Hot Space Hachioji I will make Guts

written by Vivian



As I started working here "HOT SPACE HACHIOJI" I introduced by a friend...

I starting to feel the sheer terror of what I have gotten into.

My ability, their stability, their ability and every kind of "ility" there is.

Some kind of responsibility to focus on.

For being their "cook" I had this harbor mixed emotions ranging from happiness to fear, about my ability/potential to do it or

what the future might hold.

And when the time past-by, it's so great to hear their voices, the performance I have given and so on.

So lucky to home this great job as I impress, because of the good atmosphere, they so supportive, they helped me a lot and feel comfortable.

Although their in the feeling of recovery coping physical and emotional condition.

And though a short period of time, I enjoyed cooking and resume them too.

Just like having an extended "FAMILY" around.

Bonding them outside more activities and having a friend at work, my social life interesting too.

間が満足そうなのを見ると、私も同じような気分になります。
私にとつての拡大された「家族」が集う小さな食堂。私は、世間との接点として、私の中の社会の一部分として、またほっとスペース八王子の仲間を友人として、単なる仕事ととらえないつもりでやっています。(抄訳・孫悟麴)



Pre-cure show made us happy

Written by Christine

The Pretty Cure Show -
When I heard that everyone from HotSpace Hachioji is going to the Pretty Cure Show I was so happy and excited because my kids love pretty cure anime and that I have a chance to take them with me. So we went, had fun and even danced together with the kids at this musical show. Then, the kids were able to interact with the cast members. I can say that everyone who was there felt



young at heart .

No one is old enough to enjoy this kind of show. At the end it always give us a lesson. Lesson learned from the show was that "Good will always triumph over evil".

プリキュアショー

クリスティン

私は、ほっとスペース八王子でプリキュアショーの鑑賞チケットを得た聞いて、娘たちがプリキュアのアニメーションを好きなので、私はとても楽しみにしていました。

去年もプリキュアショーを観に行けて、今年も行けるかなとチャンス waited 待っていました。

今年のショーもとても楽しかったで

す。娘たちと一緒に踊ったりして、楽しい時間を過ごすことが出来ました。ショーが終わって、娘たちは出演者と会つ(ハイタッチ会)ことが出来ました。私が感じたのはそこにいた人みんなが、若いハートを持っていたということです。誰もがこのショーを楽しむのに年齢は関係ありません。

最後に、プリキュアショーが常に教えてくれること、それは「勧善懲悪」です。



Hot Space Recreation Day

Written by Vivian

The kiddie's, parents and all audience show their participation in dancing and singing.

As they intentioned us, by showing good guys fighting to fall down the bad guys.

As if "super hero precure" members getting stronger as they are.

Hot space staff and members, my co-worker Filipina and her kids enjoyed a lot, as my kid too.

We're so blessed, happy watching along with them. And looking forward to have this chance again.

Thank you

I've been so lucky to watch over a popular kiddie anime?! japanese cosplay besure "Precure" with my beautiful daughter.

We showed it a year passed, but it's different gentle show.

フリキュアはみんなを元気にさせる

ウィヴィアン

私は子供に人気のある日本のアニメ "プリキュア" の着ぐるみショーが観られるということで、自慢の愛娘^{まなみ}と期待していました。今回はとても幸運です。

この着ぐるみショーは、何年も続けて行われているということですが、初めて観るので新鮮な感じがしました。たくさんの子供たちと保護者たちが

歌と踊りに参加しているのを見て、このアニメの人気を実感できました。

ショーの役者さんたちが、観客に向けて応援を呼びかけるとたちまち「スーパーヒーロー（ヒロイン？）プリキュア」になって悪者を倒すというのは一体感があってよかったです。

ほっとスペース八王子の職員、利用者、私の同僚のフィリピン人と彼女の娘さんたちは、ショーを楽しんでいたようです。私も子供たちと一緒に楽しみました。

私たちはほっとのみんなと一緒に楽しめて満足です。

また機会があったら一緒にいきたいと思っています。



スクリーンレビュー

「日本鬼子（リーベンクイス）」

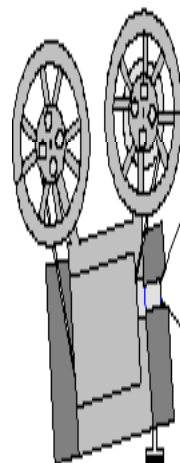
—元皇軍兵士の証言— 安兵衛

映画監督、撮影監督のお二方が上映後に映画製作裏話、余談などを混えて、楽しくお話しされていました。製作されたのがいまから16年前の西暦2000年。

当時と比べても現在の右傾化に驚いた様子でした。そして、この映画の上映する意味が以前よりも増しているとお話でした。

その後会場との質疑応答も含めて、議論もありましたが、中国語の通訳の方もおられ、中国での上映も考えているのかという質問にはベルリン映画祭にこの映画が注目されて日の目を見た経緯なども話され、香港やアメリカでも上映され在米中国人たちからも絶賛されたそうです。

僕たちはこの映画の上映会を通して、若い人に戦争の悲惨さだけでなく、ここに登場する普通の人々が戦場ではかくも非人間的なことを平気で行える



ようになってしまうこと、この事実をまずは知ることから始めなければならぬと話されました。

僕もそして会場の人々も大いに頷いていました。

特に、若い人々が戦争を知らない世代の僕らよりもっと日清、日露、第一次世界大戦、日中戦争、第二次世界大戦を知らない世代が多くなっています。しかし、学校教育では社会の時間にも戦争について教えず、国際協調には最も大切な近現代の歴史についての認識が全くありません。

安倍自公内閣の偏った近現代の歴史のデマがまかり通っている現状では、僕らが歴史の真実をどうやって伝えていくかが課題だと重く受け止めなければならぬお話でした。

ほっとスペース八王子での報告では、北京大学に留学されていたS先生が感想を述べられているのを聞いて、

感慨がさらに深まりました。

S先生は「北京にいた時期に日本将兵がどんなに悪逆非道な事をしたかを伝える数多くの映画や小説を目にした。しかし、今回の『日本鬼子』という映画は、日本将兵が現地でのどのような行を行ったのか、加害当事者本人の証言によって製作されていた。悲惨な目に遭った人々の大多数はすでに亡くなっていて、直接の被害証言はなくなか得られない。生き残った人々にとっては語る事のできないほどの体験もある。この作品は、中国が製作した日本将兵の悪逆非道さを描くどの作品よりも、日本将兵の加害行為のリアルな有様を心に深く伝えてくれた。」という話に頷くしかなかった。

それほど、この映画は忠実に元皇軍兵士たちの証言を綴った貴重な映像です。もはや亡くなった方も多いと聞き



（右画像：映画「日本鬼子」のDVDパッケージ）



ます。映画の最初は一人一人の将校や兵士は戦争に徴兵されるまではごく普通の当たり前の人だったことが語られます。初めて中国兵の捕虜を銃剣で刺し殺す訓練の場では、手が震えて縛り付けられて動けない捕虜を刺すことさえできなかった。殺害した後は、罪の意識で苛まされる日々を過ごした。しかし、日常茶飯事のように一人殺し、二人殺し、数十名も殺すと感覚がマヒし、中国人一人一人を物を動物のようにに思い、人と思えなくなってきたことが淡々と語られます。「悪の凡庸さ」（ハンナ・アーレント（注1））の端的な例です。ユダヤ人大虐殺が平然と事務处理的に行われたように、元皇軍兵士

たちも淡々と日常生活のように中国人たちを殺害してきたことが語られました。

皇軍は敗戦時、中国全土で約一七七万人いました。撫順戦犯管理所（注2）に収容されたのはわずか千余名に過ぎません。しかし、その千余名の元皇軍兵士が自分の人間性を取り戻すために、自分の罪を認め、贖罪をしたのです。そのために、帰国してから家族や地域から白い目で見られ、「アカ」「中国の回し者」等と罵られ、就職もままならなかったそうです。

妻からさえも、罪を認める自分に対して「強姦したなどと、そこまで認める必要はないでしょう。他の人達だってやってきているのに口を塞いでいるじゃない」しかし、元皇軍兵士は『上官の命令で残虐行為を行った』と云えば、自分は悪くはないと思えるかもしれないが、強姦は上官の命令で行うわけでもないし、行わない。たとえ、国際法違反でも、戦場でのことで仕方がないと上官が見て見ぬふりをしていても、自らの意思で行った残虐な行為だから、告白して自分の罪を贖うしかないのだと。

戦後、アメリカの兵士たちは朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争等で戦争後遺症（注3）、を患い、

帰国後、アメリカ国内でその病のために考えられない残虐な犯罪を犯したり、心の病で自死に追い込まれたり、数多くの戦争後遺症の影響が出ていますが、人間性を取り戻した撫順戦犯管理所の千余名の元皇軍兵士の方々の多くは戦争後遺症などかららずに、日本では差別は受けながらも平和な生活を営めてきている。（注4）。別に中国びいきではないのですが、周恩来の偉大な思想の成果だと思っています。

ドイツも戦後の戦勝国による戦争裁判以外に、自ら国として戦争犯罪と向き合い、戦争犯罪を問う裁判を行ってきた。

しかし、日本はそれを行ってこなか



った。自ら国として戦争犯罪と向き合い、二度と再び過ちを繰り返さない作業を怠（おこ）らなかつた。そのことが、現在戦前と同じような状況が生み出される大きな原因の一つだと思う。相模原事件で明らかにされた障がい者虐殺を正當化する動きがここまであからさまになってきた原因も、在日外国人に対してハイトスピーチ、ハイトクライムが当たり前のように街を闊歩（かつぽ）している状況を生み出している大きな原因だと思います。

撫順戦犯管理所に収容された元皇軍兵士たちのこのような人間性を取り戻そうとする必死さは、単に自分のためだけではなく、将来の若い人たちに對するメッセージなのだ。この映画を見て、僕自身ももっとも若い人がこの映画を見て、戦争の被害者面はしても、理解できても、加害者性についての理解が重要なことを伝えていかなければならないと確信しました。

注1…ハンナ・アーレント（8頁参照）によると、「参加する者たちは自分たちが何をしているのか分からずに、ただそれを遂行することが目的になっている『考えや意識の無いしかばね』という言葉に集約される。

注2…撫順戦犯管理所には、ハバロフスク捕虜収容所から移送された日本軍捕虜（一部文官や技官、軍属、憲兵、警察官などを含む）、崩壊した満州国、中国国民党の一部の将兵が収容された。

注3…戦闘ストレス反応（CSR）。戦争による精神的影響の研究は第一次世界大戦時にはある程度進んでいたが、研究として一定の結論が出された（診断名・PTSD（心的外傷後ストレス障害））のはベトナム戦争後の1980年である。

注4…中国共産党のいわゆる「寛大政策」により免訴、あるいは有罪減刑になった者などが日本に帰国後、1957年に中国帰還者連絡会（通称中帰連）を結成、講演活動などを行っている。

2011年、「日本鬼子」はこういうイメージになりました。



画像はイメージですよ。



次号予告

次号、156号は、特集記事として病地学会参加リポート、新年を迎えて、プログラム感想、その他特別寄稿記事、学習会で使用した事件のレポート（秋葉原無差別通り魔事件、神戸連続児童殺傷事件）、その他日常の徒然（つね）な記事なども掲載します。特に、医療観察法については、刑事手続き、刑事施設処遇なども含めて広く取り上げるつもりです。今号の編集から発行までのあいだに、アメリカでは次期大統領にドナルド・トランプ氏が確定しました。この件に関して御寄稿があるかはわかりませんが、次号もご期待ください。編集部では、引き続き絶賛記事募集中です。（どんな記事でも大歓迎なのですが、特にイラストなどを送っていたらけると、とても喜びます）

編集後記

▼全国2000人（推定）の読者のみなさま及び読者一部の安兵衛ファンのみなさま、お待たせいたしました、155号の発行になります。▼今号を発行するにあたって、いろんなことがありました。やまゆり園事件に横浜大口病院事件、アメリカ大統領選挙にTPP、韓国朴大統領スキャンダルと、この中のいくつかはヘッドレター（「ほっと」同封のカンパ・賛助金・購読料〈任意〉など）のお願いレターのこと）に書いておきます。

▼今回は非常勤職員2人による英文記事を掲載してみました。いかがでしたでしょうか。翻訳も便利になったのですが、まだまだ人の手で細かく修正しないと日本語として変な文章になってしまいます。センスって、とても大事ですね。（しみじみ）▼いろんな人が記事を書いて、いろんな人の意見があるわけですし、編集しながら読んでいて思うところはあるのですが、どれも参考になっています。多謝。（編集部）